

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
【部門区分】第 1 部門第 2 区分  
【発行日】令和 7 年 4 月 21 日(2025.4.21)

【公開番号】特開 2024-67143(P2024-67143A)  
【公開日】令和 6 年 5 月 17 日(2024.5.17)  
【年通号数】公開公報(特許)2024-090  
【出願番号】特願 2022-176975(P2022-176975)  
【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02(2006.01)

10

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 2 6 Z

A 6 3 F 7/02 3 3 4

【手続補正書】

【提出日】令和 7 年 4 月 11 日(2025.4.11)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

20

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

演算回路、リードメモリ、リードライトメモリ、乱数値を発生させる乱数回路、及び多項式演算回路を有して遊技の進行を制御する遊技制御手段と、  
前記リードメモリは、遊技の進行に関する制御プログラムが記憶された第 1 記憶手段と、  
遊技の進行に関与しない制御プログラムが記憶された第 2 記憶手段とで構成され、  
前記リードライトメモリは、前記第 1 記憶手段が読み書きする第 3 記憶手段と、前記第 2  
記憶手段が読み書きする第 4 記憶手段とで構成され、  
前記第 2 記憶手段に記憶されたエラー検出プログラムにより検出された異常に応じて前記  
第 4 記憶手段のエラー要因格納領域に、発生したエラー要因をセットし、前記第 2 記憶手  
段に記憶されたエラークリアプログラムにより第 4 記憶手段の前記エラー要因格納領域に  
セットされたエラー要因がクリアされ、  
前記エラー要因格納領域にセットされたエラー要因には、前記エラークリアプログラムに  
よりクリアされるエラー要因とクリアされないエラー要因とがあり、  
前記第 3 記憶手段、及び前記第 4 記憶手段は、作業領域とスタック領域で構成され、  
前記エラー要因格納領域は、前記第 4 記憶手段の作業領域に含まれ、  
前記エラー検出プログラムには、前記乱数回路の検査を行う乱数検査手段が含まれ、  
前記第 1 記憶手段に記憶されたプログラムから前記第 2 記憶手段に記憶されたプログラム  
を呼び出すための特定コール命令があり、

30

40

前記乱数検査手段は、前記第 4 記憶手段のスタック領域を使用するとともに、前記第 1  
記憶手段のプログラムから前記特定コール命令で呼び出されることを特徴とする遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 8】

本発明の第 1 の実施態様に係る発明は、下記の構成を有する。

演算回路(例えば、メイン CPU 2101)、リードメモリ(例えば、メイン ROM 21

50

02)、リードライトメモリ(例えば、メインRAM2103)、乱数値を発生させる乱数回路(例えば、乱数回路2110、乱数回路2150)、及び多項式演算回路(例えば、CRC回路(巡回冗長検査(CRC16)回路))を有して遊技の進行を制御する遊技制御手段(例えば、主制御基板2071)と、  
前記リードメモリは、遊技の進行に関する制御プログラムが記憶された第1記憶手段(例えば、使用領域内ROMエリア)と、遊技の進行に関与しない制御プログラムが記憶された第2記憶手段(例えば、使用領域外ROMエリア)とで構成され、  
前記リードライトメモリは、前記第1記憶手段が読み書きする第3記憶手段(例えば、使用領域内RAMエリア)と、前記第2記憶手段が読み書きする第4記憶手段(例えば、使用領域外RAMエリア)とで構成され、  
前記第2記憶手段に記憶されたエラー検出プログラムにより検出された異常に応じて前記第4記憶手段のエラー要因格納領域(例えば、「使用領域外エラーフラグ」、「遊技復帰不可能エラーフラグ」)に、発生したエラー要因をセットし、前記第2記憶手段に記憶されたエラークリアプログラム(例えば、図192に示した使用領域外エラー要因クリア処理(使用領域外))により第4記憶手段の前記エラー要因格納領域にセットされたエラー要因がクリアされ、  
前記エラー要因格納領域にセットされたエラー要因には、前記エラークリアプログラムによりクリアされるエラー要因(例えば、「使用領域外エラーフラグ」にセットされたエラー要因)とクリアされないエラー要因(例えば、「遊技復帰不可能エラーフラグ」にセットされたエラー要因)とがあり、  
前記第3記憶手段、及び前記第4記憶手段は、作業領域(例えば、使用領域内作業領域、使用領域外作業領域)とスタック領域(例えば、使用領域内スタック領域、使用領域外スタック領域)で構成され、  
前記エラー要因格納領域は、前記第4記憶手段の作業領域に含まれ、  
前記エラー検出プログラムには、前記乱数回路の検査を行う乱数検査手段が含まれ、  
前記第1記憶手段に記憶されたプログラムから前記第2記憶手段に記憶されたプログラムを呼び出すための特定コール命令(例えば、CALL EX)があり、  
前記乱数検査手段は、前記第4記憶手段のスタック領域を使用するとともに、前記第1記憶手段のプログラムから前記特定コール命令で呼び出されることを特徴とする遊技機。

10

20

30

40

50